

都道府県名

佐賀県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	山内町立山内東小学校（犬走分校・舟原分校を含む）								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	0	14	23
児童数	36	40	58	52	48	55	0	289	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ楽しさを味わい、主体的な学びのできる児童の育成
～個に応じる指導の工夫・改善～

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

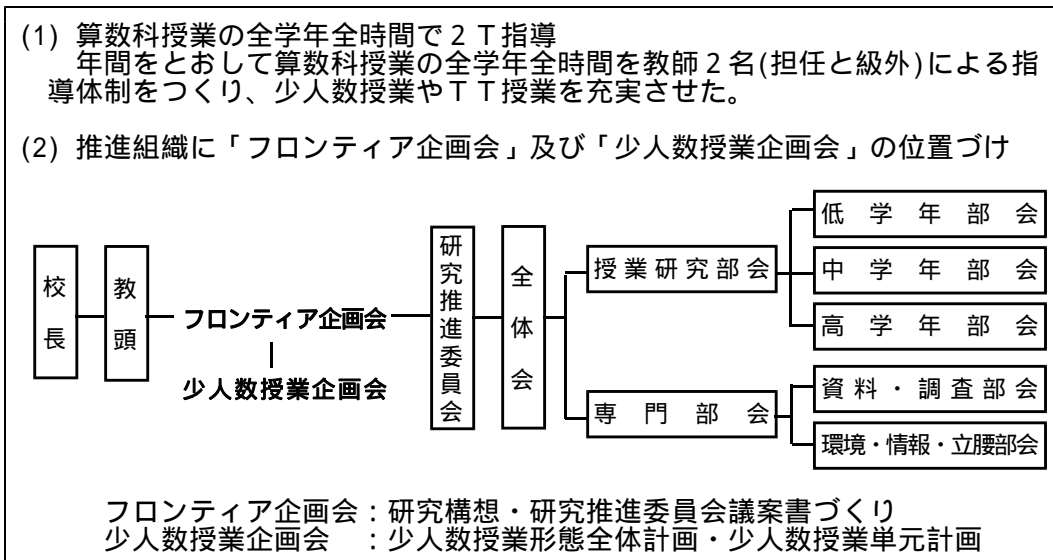
全学年・算数
次の3点から研究教科を算数とした。
・学習内容の学年ごとの系統性が強い教科である。
・各学年において、基礎・基本の確実な定着が特に求められてる教科である。
・児童の理解の状況に差が出やすい教科である。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学ぶ楽しさを味わい、主体的な学びのできる児童の育成 ～個に応じる指導の工夫・改善～</p> <p>研究の見通し ・問題解決型の学び方を身につけさせていけば ・個に応じる教材・教具を開発し、学習形態や学習の場を工夫していけば ・評価を効果的に指導に生かしていけば 学ぶ楽しさを味わい、主体的な学びを身につけるであろう</p> <p>研究の内容・方法 ・問題解決学習の充実 ・少人数授業の工夫と定着 ・児童の実態に応じる教材開発 ・評価の工夫</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 学ぶ楽しさを味わい、主体的な学びのできる児童の育成 ～個に応じる指導の工夫・改善～</p> <p>研究の見通し ・問題解決型の学び方を身につけさせていけば ・個に応じる教材・教具を開発し、学習形態や学習の場を工夫していけば ・評価を効果的に指導に生かしていけば 学ぶ楽しさを味わい、主体的な学びを身につけるであろう</p> <p>研究の内容・方法 ・問題解決学習の改善と定着 ・少人数授業の改善と定着 ・児童の実態に応じる教材開発 ・評価の工夫</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 2 C 4 T等の少人数授業に取り組むことによって、児童の学ぶ意欲が向上し問題解決力が高まった。

本校教師の研究課題意識調査結果
 [4:強く思う 3:やや思う 2:あまり思わない 1:思わない]

◆子どもの実態から		H15. 4月 (平均)	H16. 1月 (平均)	差 (ポイント)
1	ノートに自分の考えがよくわかるように書けていない。	3.07	2.39	0.68
2	いく通りも方法で解決することができていない。	3.27	2.61	0.66
3	友達の考えと自分の考えを比べて発表することができない。	3.27	2.78	0.49
4	自分の考えを筋道立てて発表することができない。	3.40	2.94	0.46
5	既習事項を使って自分の力で解決していこうとしない。	2.73	2.44	0.29
6	興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組めない。	2.20	1.94	0.26
7	図や表などを使って解決していこうとしていない。	2.71	2.50	0.21
8	具体的な操作活動を生かして解決することができていない。	2.14	2.06	0.09

(2) 少人数授業に取り組むことによって、「勉強がよく分かる」と感じている児童が増えてきた。

算数の勉強はよく分かりますか？ 調査対象:5年

	[6月]	[1月]
よく分かることが多い	27%	32%
だいたい分かることが多い	60%	64%
分からないときがあることが多い	13%	4%
分からないことが多い	0%	0%

(3) 高学年になるにつれて少人数授業を好む傾向にあり、その理由として「発表や質問がしやすい」「集中できる」「自分のペースで学習がすすめられる」と答えている。

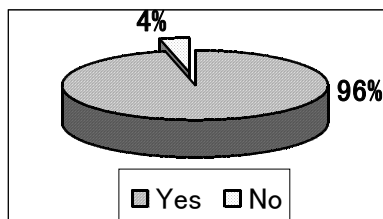
TT授業と少人数授業では、どちらが分かりやすいですか？

	3年生		5年生		6年生	
	[6月]	[1月]	[6月]	[1月]	[6月]	[1月]
TT授業	50%	28%	19%	9%	18%	2%
少人数授業	45%	54%	75%	85%	73%	81%
どちらともはいえない	5%	18%	6%	6%	9%	17%

- (4) 学年4コースの少人数授業でも、自分の学習スタイルに合ったコースを選択できるようになった。

今回のコースは、自分にあっていましたか？

調査対象：6年「割合を使って」学習後



- (5) 日常的に少人数担当教師が各クラスに入ることにより、学級が開かれ、職員がチームを組んで児童の学力向上を支援していこうという意識が向上し、指導の協力体制ができあがってきた。

また、少人数授業は、児童一人一人の興味・関心や学習スタイルに合わせた指導となるため、「できる」「楽しい」「分かる」授業づくりができ、子どもも意欲的になり、成就感を味わわせることができる指導形態だと感じている。

学習の状況によっては、より丁寧な指導ができたり、理解や学習の速い子どもには発展的な問題に取り組みせたりすることもできた。少人数授業は、一人一人に目が行き届き、児童の到達度や学習状況が把握しやすい、つまりそこに場で迅速に対応できるなど、個に応じたきめ細かな支援ができると感じている。

一方、児童の実態把握や指導計画を綿密に行うので、教師側からの児童理解も深まってきた。さらに、教師の教材研究への意欲が向上し、教師間で切磋琢磨する姿勢が見られるようになり、指導力の向上につながってきているものと感じている。

2. 今後の課題

- (1) 学習内容に応じた指導形態・指導方法の工夫・改善
 - ・TTと少人数授業の効果の明確化
 - ・個に応じる指導のための教材の開発
- (2) 学習過程の改善・定着
 - ・一人学びの時間の保障と自力解決への支援の在り方の研究
 - ・学習意欲を家庭学習や次時学習につなげる、本時終末の在り方の研究
- (3) 補充指導の充実
- (4) 学力向上に向けた、家庭・地域社会との連携方策の検討及び実践

学力等把握のための学校としての取組

- (1) 全国標準診断的学力検査（国語・算数）
 - ・目的 標準的学力検査による児童の学力の実態を把握するため
 - ・時期 5月
 - ・対象 2～6年
- (2) 教研式標準学力検査（算数）
 - ・目的 児童の基礎的・基本的な学習内容の到達状況を把握するため
 - ・時期 2月
 - ・対象 1～6年
- (3) 算数科学習意識調査
 - ・目的 児童の算数科学習の意識の実態とその変容を把握するため
 - ・時期 6月（全校）・11月（1年、6年）・1月（2年、3年、5年）
- (4) 家庭学習状況実態調査
 - ・目的 家庭での学習状況を把握するため
 - ・時期 6月・12月
 - ・対象 全児童及び全保護者

- (5) 基本的な生活習慣実態調査
 ・目的 基本的な生活習慣の状況を把握するため
 ・時期 6月・12月
 ・対象 全児童及び全保護者
- (6) 教員の研究課題意識調査
 ・目的 教員の算数科指導上の課題意識を把握するため
 ・時期 4月・1月
 ・対象 全教員

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 公開授業の開催(年2回)
 期日: 11月28日(金)
 内容: 1年「ひきざん(2)」 事前到達度別少人数授業 3C4T
 6年「割合を使って」 事前到達度別少人数授業 2C4T
 参観者: 44名
- 期日: 2月10日(火)
 内容: 2年「10000までの数」 習熟度別少人数授業 3C4T
 3年「はこづくり」 興味・関心別少人数授業 2C4T
 5年「円」 TT授業及び学級内習熟度別少人数授業
 参観者: 58名
- (2) 年度当初のPTA総会でのフロンティア事業の趣旨説明及び年度末のPTA研修会でのフロンティア事業の成果報告
- (3) 学校評議員会及びPTA役員会での学力向上の取組説明
- (4) 「学校だより」でのフロンティア事業の趣旨・内容の説明
- (5) 保護者向けの「学力向上フロンティアだより」での少人数授業やTT授業の紙上紹介
- (6) 佐賀大学助教授上野景三先生による、教育講演会『学力向上と家庭の役割』を開催予定
- (7) 今年度の研究成果をHP更新予定

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無